

られ副作用は全くみられなかった。辺縁の鮮鋭度においては劣るが症例を重ねて検討中である。

52. 1600 memory system による Scintillation

Camera の頭蓋内疾患に対する診断的応用

東京医大 脳外科

○高梨 邦彦 新村富士夫 三輪 哲郎
放射線科

阿部 公彦 村山 弘泰 岡本十二郎

頭蓋内疾患の診断に対する RI の利用は、従来より数多くの研究が行なわれているが、近時 RI image 装置の改良や、短半減期 RI の開発等に伴ない脳神経外科領域における検査法として欠くことのできない手技となった。

われわれの教室では昭和42年1月より2対向 5"scanner を用いて頭蓋内疾患に対する RI 診断を行ってきた。これらの診断価値については第7回核医学会、67回外科学会、27回脳外科学会にて報告した。今回われわれは Nuclear chicago 社の PHO/GAMMA scintillation camera を用い 1600 channel analyzer system, magnetic tape recorder 等を組合わせ、主に脳腫瘍に対する brain/tumor concentration ratio および tumor への RI の集積状況の経時的变化を求め、これより組織診断を試むべく検討中である。また同一疾患に対し2種以上の RI を用い更にその経時的变化を求めその比較により頭蓋内疾患に対する診断価値を追求中である。